

令和8年2月19日

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名称…老人デイサービス きらめき

サービス種類…地域密着型通所事業、介護予防・日常生活支援総合事業

会議開催日…令和8年2月19日（木）15：00～16：00

開催場所…詔光の里 応接室

出席者

事業所	2人	利用者	0人
利用者家族	1人	地域代表者	1人
松江市職員（介護保険課）	1人	包括支援センター	0人
知見を有する者	1人	その他	0人

【議事】

令和7年度下半期活動報告

【議題】

活動状況報告

1. 事業所紹介
2. 利用実績
3. 活動内容
4. 運営・地域についての意見交

【意見交換】

●事業所の問題点（事業所からの報告内容より）

○顧客からのニーズに対しての支援

事業所）個別ケアが求められている時代である。この状況下において職員がどのように対応できるか試されている時代になった。個々（職員）のスキルアップが必要である

○経営の安定化、施設差別化

事業所）有料老人ホームの建設に伴い重度（介護度1～5）の利用者が減った。要支援の利用者の割合が増え経営自体は厳しい状況である。又、近隣の通所事業も閉鎖に伴い利用者の問い合わせも増えているが軽度方が多く以前と経営状況は厳しい状況。

食事については当事業所で調理行っている。これも特徴の一つである。嗜好調査を行い反映させているので喜んでもらっている。今後は選んでもらえるような取り組みなどを増やしていきたい

●ご家族様の意見

ご家族）お世話になっている。主人に対しても個別にケアをして下さりとても喜んでい。この施設を選んだ理由は主人が見学をして選んだことと、ショートが有ることが主

な理由である。ただ、ショートは対応が難しいことで現在利用できていない事が残念である。

有識者) 以前の事業所では帰宅願望が強い人などは一時的に通所に降りて気分転換を行うことも有った。本人の通所に行きたいという思いもあり尊重しながら対応していた。

事業所) 法律的に考えると難しい面も有るが、人道的に考えると拒否はできない。上記の件についての対応は有識者の方と同じである。又、ショートに職員が顔を見にいくなど出向く事も有った。

介護保険課) ショート利用時に通所の居場所について。特例としてしっかりプランに記載してあれば通所の対応も可能である。但し定員超過の場合はダメ。

ご家族) 体調不良など各関連機関との連携を密に取って頂き本当に助かっている。

●地震時の対応について

介護保険課) 地震時の対応について伺いたい

事業所) 入浴中であつた。直ぐにボイラーを止め、家族に無事の連絡を入れご家族の状況も確認する。余震のことも有り、安全を考慮し定時近くまで事業所にいることを選択し承諾得た。利用者も精神的不安となり寄り添いながら対応した。

介護保険課) 今回の地震について振り返りを行い、BCPの見直しや研修の際に活かして欲しい。

●人財確保について

有識者) 人材確保についてどのように行っているか

事業所) 職員を通して探している状況である

有識者) どこも高齢化が進み、職員を頼り人材確保している状況。確保が難しい

事業所) 外国人の受け入れが始まっている。宗教問題や環境へ配慮が必要である。又、認知症を言葉で説明し理解してもらうことが難しいとの事。ただうまく教育ができればすごい戦力になることは確かである。

※事業所確認欄

<input type="checkbox"/> 活動報告についての評価を受けることができたか。	○
<input type="checkbox"/> 要望・助言等受ける機会を設けたか。	○